

後援会だより

後援会の活動報告

後援会の多岐にわたる活動についてご紹介します



2024年度

首都圏父母懇談会キャンパスレポート

市ヶ谷キャンパス

首都圏父母懇談会実行委員長 岡島 健

10月6日(日)薄曇りの中、市ヶ谷キャンパス首都圏父母懇談会が開催されました。
後援会のスタッフは6月から準備を始め、「昨年より良いものを」と直前まで工夫を重ねて、1,500名に迫る多くの父母の皆さまをお迎えました。



写真は、市ヶ谷父母懇談会を支えたオレンジの似合う後援会のスタッフです。学部別懇談会、キャリアセンター講話、学生によるキャンパスツアー、学生イベントなどで盛り上がりました。食堂もオープンし、お昼時には行列ができて1,000名を超える多くの皆さまに学生と同じ食事を体験していただきました。ちなみに、一番人気は「教職カツカレー」で売り切れになりました。

学生イベントは、今年は薩埵ホールに場所を移しての開催です。昨年に引き続き、「アカペラサークル BeBap!」、ストリートダンスサークル「HSD」に出演してもらいました。BeBap!の美しいハーモニー、HSDの華麗で楽しそうなダンスに魅了されましたが、あっという間に終わってしまい私は「アンコール!」と心の中で念じましたが駄目でした。



キャンパスツアーでは、学生スタッフの元気で丁寧で面白い説明に参加された皆さまは大満足の様子でした。また、今回はえこびよんも参加してイベントを盛り上げてくれましたが、ずっと写真を撮られて人気者もつらいなと。えこびよんのパフォーマンスしてくれた学生たちにインタビューしたところ、「楽しかった、またやりたい!」とのこと。来年もえこびよんが来てくれるといいですね。

多摩キャンパス

首都圏父母懇談会実行委員長 渋谷 美由紀

こちらが今年の多摩キャンパス父母懇談会を支えたスタッフです。多摩の後援会役員だけでなく、市ヶ谷、小金井、そしてOB・OGも手伝いに来てくれました。ご紹介した食堂体験と学部別懇談会以外にもキャリアセンター職員による就職活動のお話、学生スタッフによるウォークツアー、法政グッズ販売などたくさんのイベントがありました。そしてなんといっても多摩キャンパスの首都圏父母懇談会の魅力は、多摩祭と同時開催であるということ。生き生きと活動する学生たちの姿もご覧いただけます。まだ一度も子どもの母校(=わが母校)を覗にいらしたことがない方、ぜひ来年遊びにいらしてくださいね!



「子どもの母校はわが母校」、自分の出身校がどこであらうと、子どもが法政大学に通っている、というだけで私たち保護者をつなげてしまう魔法の言葉です。10月19日(土)、この言葉をベースに「子どもの母校を覗に行こう!」というキャッチフレーズで法政大学をより身近に感じていただけるような父母懇談会を開催いたしました。



学部別懇談会では教授による学部ごとの特色や法政大学ならではの学部を超えたカリキュラムについて興味深いお話を伺うことができました。また、就職活動を終えたばかりの学生たちからは、就職活動を始めて自分の希望業界がはっきりしてきたこと、人によっては大学院に進学して、より研究を深掘りしたくなったことなど、具体的なお話を伺える貴重な機会となりました。



こちらは昨年から始まりました、大人気企画「学食体験」です。普段はスポーツ健康学部の学生以外は食べられないメニューを特別にご用意いたしました。あまりの人気に準備していた450食は13時には完売となり、食堂の方のご厚意で512食提供することができました。お越しくださった皆さまには季節外れの30°Cという暑さの中、スポーツ健康学部へのバス停や、食堂でお並びいただきありがとうございました。



小金井キャンパス

首都圏父母懇談会実行委員長 丸塚 久美

爽やかな秋晴れの下、10月13日(日)に小金井キャンパスで首都圏父母懇談会が開催されました。
今年も多くの保護者の方にご来場いただき、後援会幹事で数カ月にわたり企画をしたさまざまなイベントを通して理系キャンパスを満喫していただきました。



午前中は理工学部、午後は生命科学部と情報科学部の学部・学科(専修)に分かれて教授や学生による説明会が行われました。教授から学修状況、研究室選びのポイント、そして大学院進学や学部卒と院卒の就職の違いなどについてお話があり、学生の親しみやすい話も保護者の皆さまに大好評でした。



学部・学科(専修)説明会后、小金井キャンパスのハイライトであります担当教授や学生などによる施設見学が行われました。キャンパス内の研究室や実験室など普段なかなか立ち入ることのできない学生たちの学びの場を案内していただきました。保護者の皆さまにはこの貴重な機会にご自身のお子さまの学習している姿を想像していただけたのではないのでしょうか。

今年度は廣瀬克哉総長が小金井キャンパスにお見えになり、法政大学の理系の特色や学部の取り組み、社会との接点についてお話をしてくださいました。保護者の皆さまは熱心に耳を傾けていらっしゃいました。また廣瀬総長のご講演後にはキャリアセンターによる「理系学部生の進学・就職と法政大学キャリアセンターの取り組み」についてのお話があり、ほぼ満席の講堂内で多くの方がメモを取っている様子が印象的でした。



今年は小金井キャンパスを楽しんでいただく新企画を3つ実施しました。太陽光発電表示、ワークショップや「航空工学研究会HoPE」のガレージの3カ所を巡るスタンプラリーを開催し、「えこびよん」も登場しました。スタンプスポットでもあるHoPEガレージでは、今年の鳥人間コンテストに出場した時の滑空機の垂直尾翼部分とフレームの展示、そして学生による質疑応答などもあり多くの来場者でにぎわいました。またゴール地点で配布した限定缶バッチは最後には一つも残らない大盛況ぶりでした。





六大学野球統一応援

〔支部からの報告〕



青森県支部
支部長
葛西 康也

9月28日（土）、対戦相手は昨年同様に早稲田大学。昨年は惜しくも負けた試合、ぜひとも今年は勝ちを！と意気込んでの観戦でした。試合前のキャッチボールの音で沸々とテンションが上がりがち、応援歌が始まると既に興奮は頂点へと。初回2点先制で先はよし。しかし、徐々に加点され6回にはついに逆転。その後7回代打吉安君の活躍で同点と追いついたが反撃もここまで、シーソーゲームで見応え十分でした。試合が終わりわれに戻ると、試合開始前の応援歌から始まり試合終了後のエール交換での校歌まで何度も法政の2文字を口にすることでいつの間にか体の芯まで刷り込まれていることに気がきました。子どもの母校はわが母校であると！



宮城県支部では、野球応援日程を2日に分けて企画実施いたしました。昨年、先輩役員の方からお声がけをいただき初の応援に参加し、その時の雰囲気がいかに体感したことのない素晴らしいものであったことから、期待に胸を躍らせ、聖地「明治神宮野球場」へ足を運びました。今秋も、法大生のプライドと意地をかけた素晴らしい戦いを繰り広げている勇姿、その一挙手一投足に大声援を送る応援団の皆さまの姿を目の当たりにし、心が熱くなり、込み上げてくる思いに浸りました。試合も16対0と東大に圧勝、試合後の懇親会も大変な盛り上がりでありました。今後も、野球はもちろんのこと、駅伝やアメフトなど、HOSEIスポーツに注目し、応援してまいります。



宮城県支部
支部長
太田 博昭



浜松支部
支部長
酒井 浩章

9月28日（土）、朝から快晴の神宮球場。前日の「大雨特別警報の恐れ!!」という天気予報を一蹴し、なんと素晴らしい青空。支部のメンバーと共に、静岡県ゆかりの野球部員とマネージャーさんのあいさつに感激。応援席で配布されたオレンジのタオルを熱狂的に振り回し、「がんばれー!!」と声を張り上げました。秋晴れの球場はまるで映画のワンシーン、学生応援団のパワーは爆発的で、こちらまで感動の渦に巻き込まれました。試合は早稲田大学と3対3の熱い戦い。試合後もエール交換や記念写真で盛り上がり、まさに充実した一日でした。



9月29日（日）、法政大学対早稲田大学を応援しました。子どもの在学中に一度は華やかな法政大学の応援を経験したいと思い、今回ついに実現することができました。当日は、後援会役員の方々にアテンドいただき、福井県出身選手との記念撮影や、試合前・試合後のエールの交換、攻撃回と守備回の応援など、野球と応援の両方の熱気を堪能することができました。また、応援団員やチア、吹奏楽の皆さんに応援のリードをしていただき、「チャンス法政」や「ストーム」、「若き日の誇り」などで皆さんと一緒に盛り上がることができました。試合は1点差で惜敗しましたが、得点ごとに肩を組んで歌う校歌は特別で、法政大学をより身近に感じた一日となりました。



福井県支部
支部長
田島 義規



キャリアセンターから会員の皆さまへ

就職環境の現状とキャリアセンターの取り組みについて

法政大学キャリアセンター事務部長 蛸島 慎一郎

2024年度（2025年3月卒業）の大卒求人倍率は1.75倍と2023年度（2024年3月卒業）の1.71倍から0.04ポイント上昇しました（出典：第41回ワークス大卒求人倍率調査[2024/4/25]）。企業の採用意欲も旺盛でコロナ禍前の水準に戻りつつあり、学生にとってはいわゆる「売り手市場」が続いています。

2025年3月卒業予定の学部生を対象とした9月時点の調査では、就職を希望する学生の内定保有率は91.1%（文系91.1%、理系91.0%）と前年同月比1.0ポイント上昇と高い水準を保っています。また、最初の内定を3月末までに得た学生が6割程度と前年同月比で10ポイント程度上昇しており、早期に採用予定人数を確保したい企業側の意向と、大学3次からインターンシップや企業説明会などに参加して、早い段階から企業と接点を持つことを希望する学生側の意向が重なり、就職活動の早期化が進んでいます。

こうした就職環境を踏まえて、ここでは主に学部生を対象にキャリアセンターが行っている代表的な取り組みをご紹介します。

進路結果報告のない4年生には、電話調査を実施しております。未内定の学生を把握した後、学内企業説明会の案内や、10月中旬以降は希望する学生一人一人に担当者を設定し、個別相談を通じて一人でも多くの学生の内定獲得に向けて支援を行っています。活動を粘り強く継続し、年明けに内定を獲得する学生も少なくありません。お子さまが周囲を気にし過ぎて就職を諦めることがないように、キャリアセンターの利用を促していただければと思います。

2026年3月卒業予定の3年生には、個別相談はもちろん、3月から夏期インターンシップに向けてのガイダンスや「イン



ターンシップ体験会」などのイベントを開催しています。3月以降も学生が就職活動に困らないために、適切な時期に目的に合わせた多数のイベントを開催しています。なお、3年生以上の希望者には、就職活動を有効に進めるための「就活手帳」を後援会のご支援により作成・配布しています。

1・2年生に対する支援では過度に就職活動を意識するのではなく、大学生活で一生懸命に取り組めるものを発見し、それに取り組むことが重要です。そのためのキャリア教育や低学年支援イベントにも取り組んでいます。

公務員や難関資格の取得を目指す学生に対しても、各種対策講座・資格講座を充実させています。

学生により相談の内容は異なりますが、「何をしたらいいのか分からない」といった相談も多くあります。学年にかかわらず悩んでいることがあったらぜひキャリアセンターをご利用いただき、一人でも多くの学生が希望する進路につけるよう取り組みを継続してまいります。



法政大学後援会事務局

所在地 〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-3 法政大学九段校舎4F
TEL 03-3264-9350
FAX 03-3264-9367
E-MAIL koenkai@hosei.ac.jp

後援会ウェブサイト
<https://www.hosei-koenkai.org/>

